

合同技術部会ワークショップW3-1 日本高気圧環境・潜水医学会「高気圧酸素治療専門技師」認定制度の在り方

小森恵子

東海大学医学部付属病院 診療技術部臨床工学技術科

【はじめに】

現在、高気圧酸素治療（以下HBO）の専門技師／技士認定制度には、日本高気圧環境・潜水医学会の高気圧酸素治療専門技師、日本臨床高気圧酸素・潜水医学会の臨床高気圧酸素治療装置操作技師、日本臨床工学技士会の高気圧酸素治療専門臨床工学技士がある。各学会で認定制度の趣旨の相違や取得難易度差といった問題点が指摘されてきたが、認定制度をHBOに関わるコメディカルの生涯教育として維持し、更なる安全性の向上と人材育成への活用につなげることは共通の目的であり、各学会の技師／技士認定制度の役割を明確にして問題点を抽出することで相互理解を深める必要がある。私は日本高気圧環境・潜水医学会の認定・試験委員会副委員長として高気圧酸素治療専門技師認定制度について述べていく。

【高気圧酸素治療専門技師認定制度】

「高気圧治療技師」は日本高気圧環境医学会（現、日本高気圧環境・潜水医学会）がコメディカルを対象とした最初の認定制度で、高気圧治療技師認定規則を定め、1976年（昭和51年）から1995年（平成7年）まで続いた。基礎編2日、臨床編2日、計4日間の高気圧治療技師講習会受講（最短2年）で認定証が発行され、初期にはHBOに従事していれば医療資格や学歴は問わず、講習会で配布される教則本や資料が当時唯一の教科書だったと記憶している。1987年（昭和62年）臨床工学技士法が制定されてHBO装置の操作は医師、看護師、准看護師、臨床工学技士に限られることになった。1996年（平成8年）山梨厚生病院のHBO装置爆発事故を経験して、学会は更なる医療安全の必要性に基づき制度改訂作業を進めた。1999年（平成11年）「臨床高気圧治療技師」と名称を改め、認定取得に際して講習会と試験審査を課し6年毎の更新と

HBOに従事していることを求めた。この年の臨床高気圧治療技師認定委員会報告には「認定試験であり資格試験ではなく、現時点での自らの力量を知りさらに向上を目指す出発点であるという認識である¹⁾とあり、これが認定試験を取り入れた学会の見解であり今も変わらない。2002年（平成14年）臨床高気圧治療技師講習会を教育集会に改め、制度の名称は「臨床高気圧酸素治療技師」に改訂した。その後高気圧酸素治療技術部会が認定・試験委員会に参画して認定制度の普及を目的に教育集会受講者の利便性が図られ、2008年基礎編、2009年臨床編を1日開催とし、2010年以降は年1回2日間の課程となった。2017年、資格名称を「高気圧酸素治療専門技師」に改め、HBOに従事していない者の認定更新を認め、生涯教育を継続することでHBOに係る学識レベルと取得した資格を維持し易い制度に改めた。

第1回認定試験による資格取得者16人、2018年までの資格取得者278人、2019年の登録専門技師274人（表1）。更新しない方もあり認定取得者数と登録者数が異なり、全国の装置設置施設数に比して専門技師数が圧倒的に足りない。しかし2018年4月の診療報酬改定により大幅な増収が見込まれることで認定取得者の増加が期待される。

【認定試験の指標】

専門技師認定試験を実施するにあたっての当学会の指標について記す。問題作成にあたり出典元は高気圧酸素治療法入門（第6版）と教育集会で講義した内容に限ること、試験正答率平均60%を目安に構成し、標準偏差±1SDを含めて合格率80～90%としている。当学会の専門技師認定制度は合格率を下げ厳しくすることで高い専門性を保証する制度ではなく、2000年の委員会報告に記した認識を維持して、HBOに従事するコメディカルとして安全な治療を提供するための基本的学識と技能を習得していることの確認と自己評価に役立て、生涯教育を実践する契機となることを期待している。

参考文献

- 1) 古山信明：臨床高気圧治療技師認定委員会報告，日本高気圧環境医学会雑誌 35：183-184，2000

表1 初回認定取得者数

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
人数	16	1	19	7	7	10	10	16	15	17
年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
人数	15	11	28	24	28	10	20	1	15	8

2019年5月10日現在、【登録済み】専門技師 274人